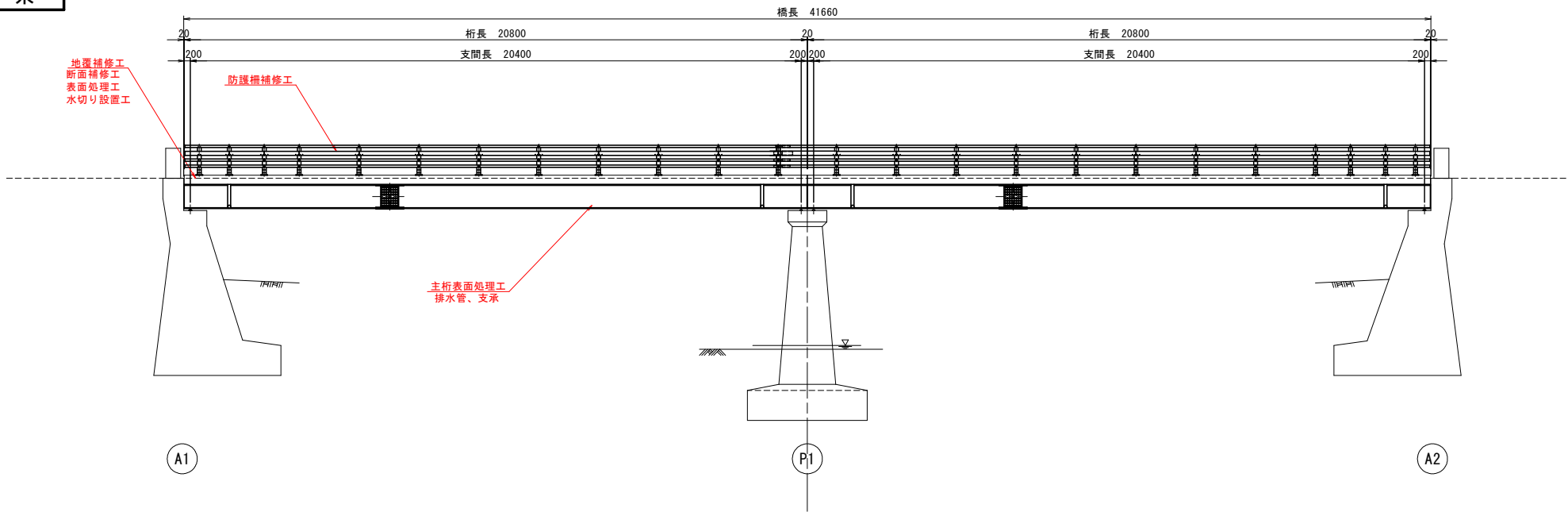


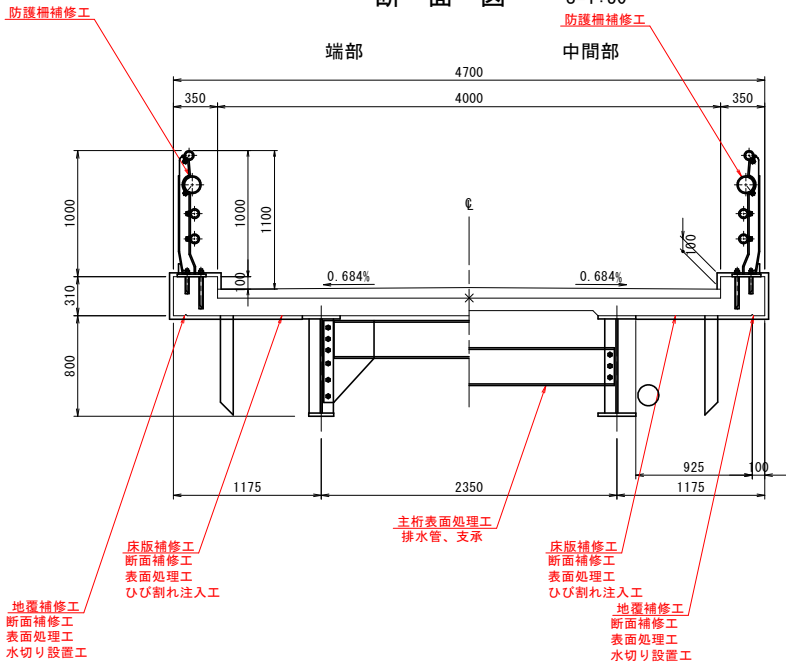
令和 8 年度		橋梁補修		工事	
工事番号		第 50 号			
路線 河川		宇道坂橋			
施工箇所		七戸町宇後川原 地内			
補修一般図		縮尺		図示	
図面番号		14 葉中 1			
七 戸 町					
青 森 県					

宇道坂橋 補修一般図

側 面 図 S=1:100

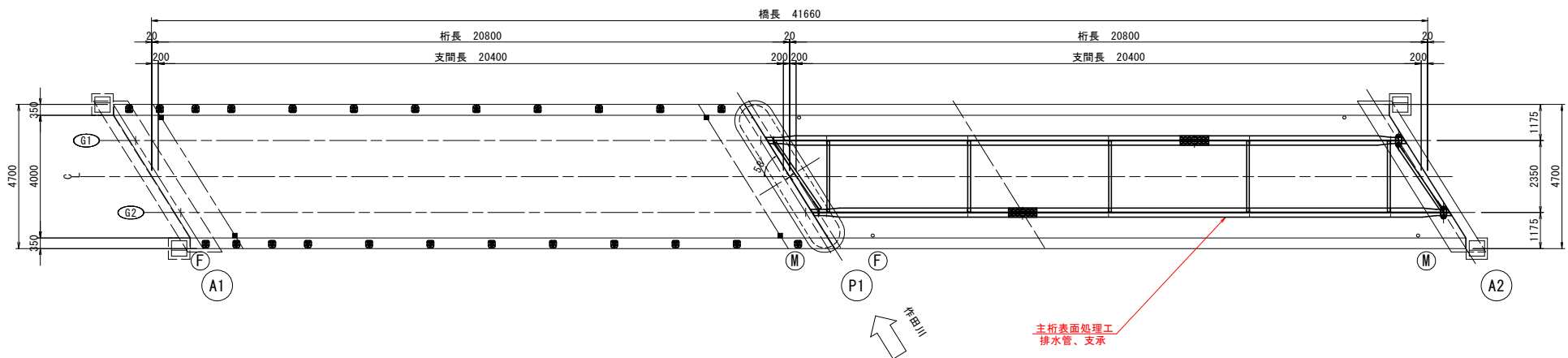


断 面 図 S=1:30



補修項目	補修工法
防護柵補修工	防護柵取替工
地覆補修工	断面修復工(左官工法)、表面処理工(表面含浸工)、水切り設置工
床版補修工	断面修復工(左官工法)、ひびわれ注入工、表面処理工(表面含浸工)
主桁表面処理工	鋼部材再塗装工(Rc-1 塗装系)※排水管、支承

平 面 図 S=1:100



設 計 条 件

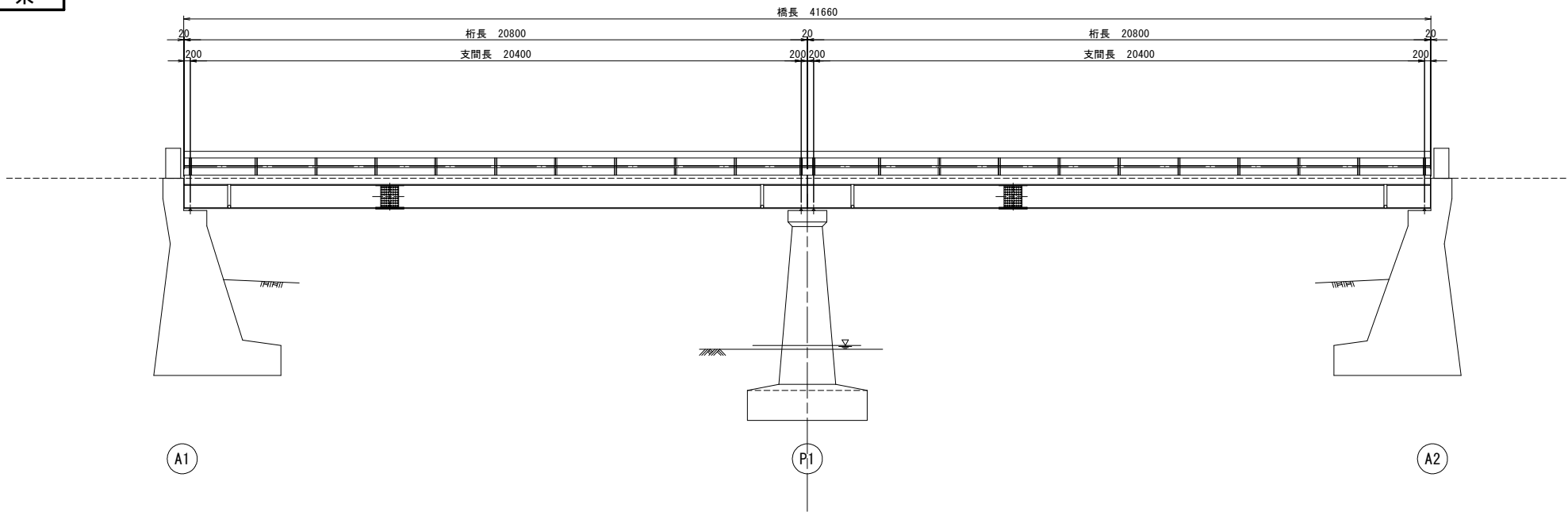
橋 梁 名	宇道坂橋 (うどうさかばし)	
竣 工 年	1967年11月 (昭和42年)	
橋 格	二等級 (推定)	
設計荷重	TL-14	
橋 長	L=41.660m	
桁 長	L=2@20.800m	
支 間 長	L=2@20.400m	
有効幅員	W=4.000m (全幅W=4.700m) ※現地計測より	
斜 角	58° ※現地計測より	
平面線形	R=∞	
橋面舗装	コンクリート舗装 (層厚不明)	
添 架 物	水道管φ160-1条	
上部工形式	2径間鋼単純合成H桁橋 (H-BB-C)	
下 部 工	躯体形式	重力式橋台
		壁式橋脚
	基礎形式	直接基礎
適用示方書	道示 (1964) (昭和39年) (竣工年次より推定)	

注 記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。

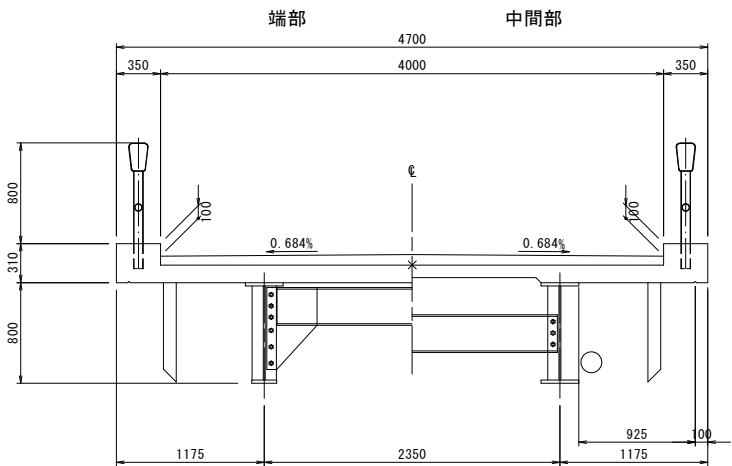
令和 8 年度			橋梁補修		工事	
工事番号		第 50 号				
路線 河川		宇道坂橋				
施工箇所		七戸町宇後川原 地内				
現況一般図面			縮尺		図示	
図面番号		14 葉中 2				
七 戸 町						
青 森 県						

宇道坂橋 現況一般図

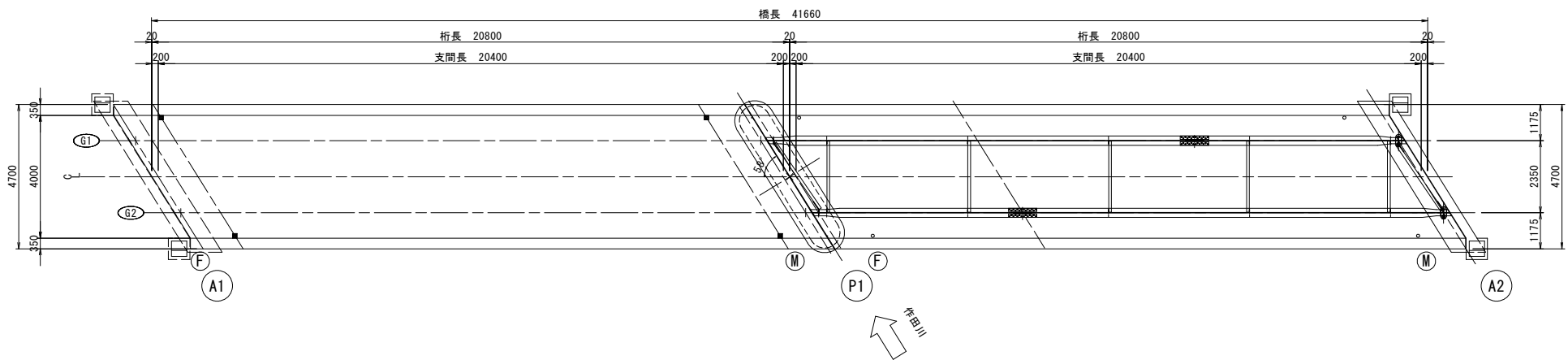
側 面 図 S=1:100



断 面 図 S=1:30



平 面 図 S=1:100



設 計 条 件

橋 梁 名	宇道坂橋 (うどうさかばし)	
竣 工 年	1967年11月 (昭和42年)	
橋 格	二等級 (推定)	
設計荷重	TL-14	
橋 長	L=41.660m	
桁 長	L=20.800m	
支 間 長	L=20.400m	
有効幅員	W=4.000m (全幅W=4.700m) ※現地計測より	
斜 角	58° ※現地計測より	
平面線形	R=∞	
橋面舗装	コンクリート舗装 (層厚不明)	
添 架 物	水道管φ160-1条	
上部工形式	2径間鋼単純合成H桁橋 (H-BB-C)	
下 部 工	躯体形式	重力式橋台
	基礎形式	壁式橋脚
適 用 示 方 書	橋 梁 形 式	直接基礎
	適用示方書	道示 (1964) (昭和39年) (竣工年次より推定)

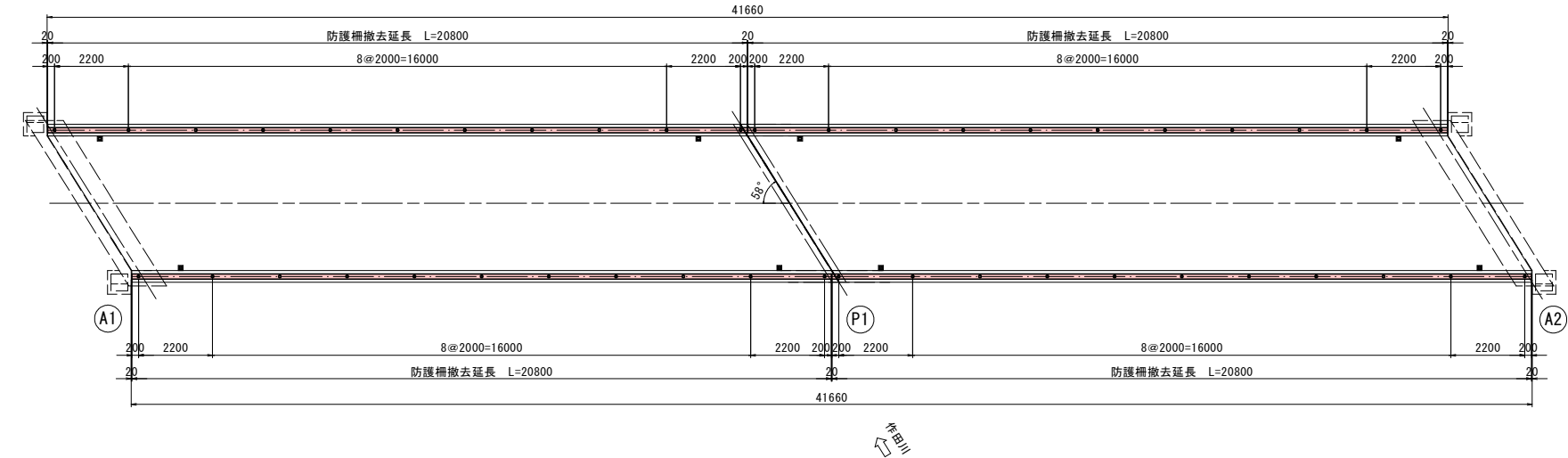
注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。

令和 8 年度			橋梁補修		工事	
工事番号		第 50 号				
路線 名		宇道坂橋				
河川						
施工箇所		七戸町宇後川原 地内				
防護柵補修工図 (その1)		縮尺		図示		
図面番号		14 葉中 3				
七 戸 町						
青 森 県						

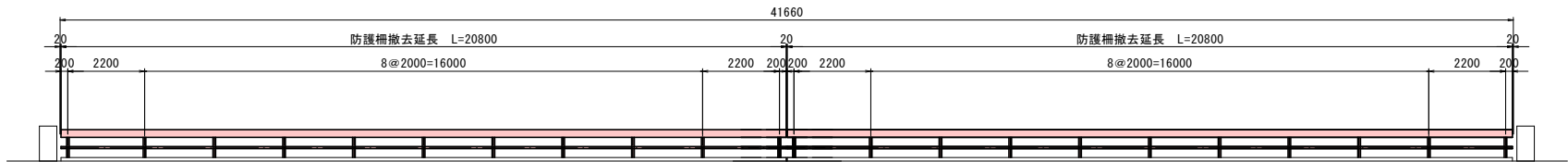
宇道坂橋 防護柵補修工図（その1）

防護柵撤去工

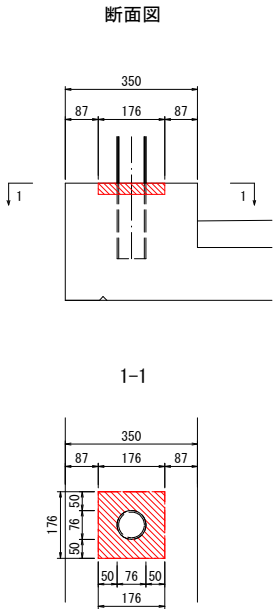
平面図 S=1:100



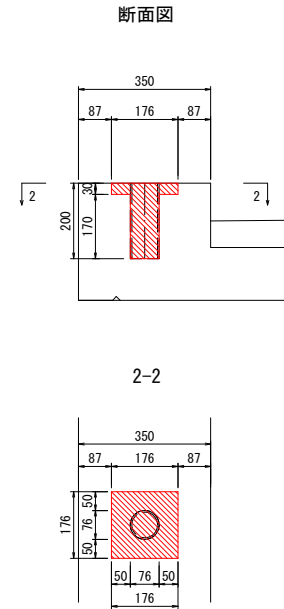
正面図 S=1:100



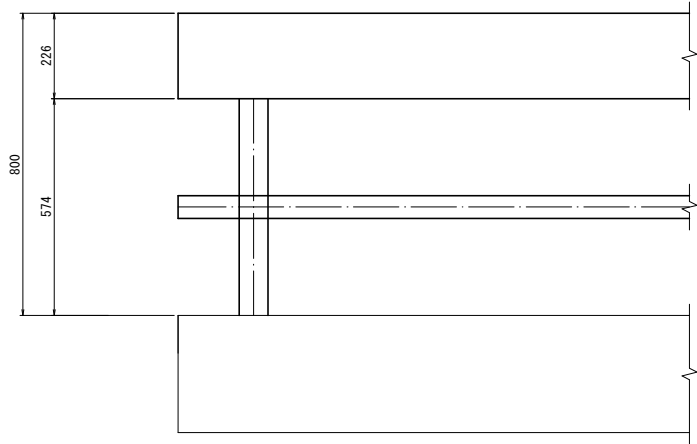
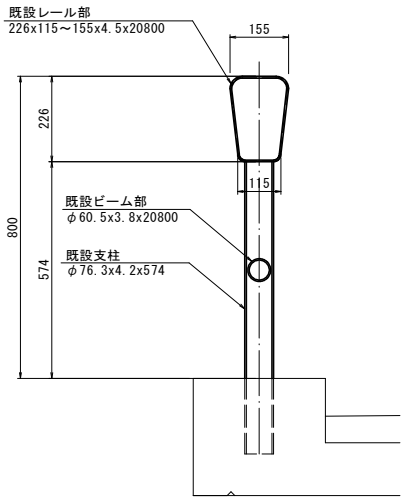
既設支柱撤去図 S=1:10
(既設支柱：片側22本×2=44本)



既設支柱復旧図 S=1:10
(既設支柱：片側22本×2=44本)



撤去防護柵詳細図 S=1:10



【撤去数量】
〈防護柵〉
4-226x115~155x4. 5x20800
4-φ60. 5x3. 8x20800
44-φ76. 3x4. 2x574

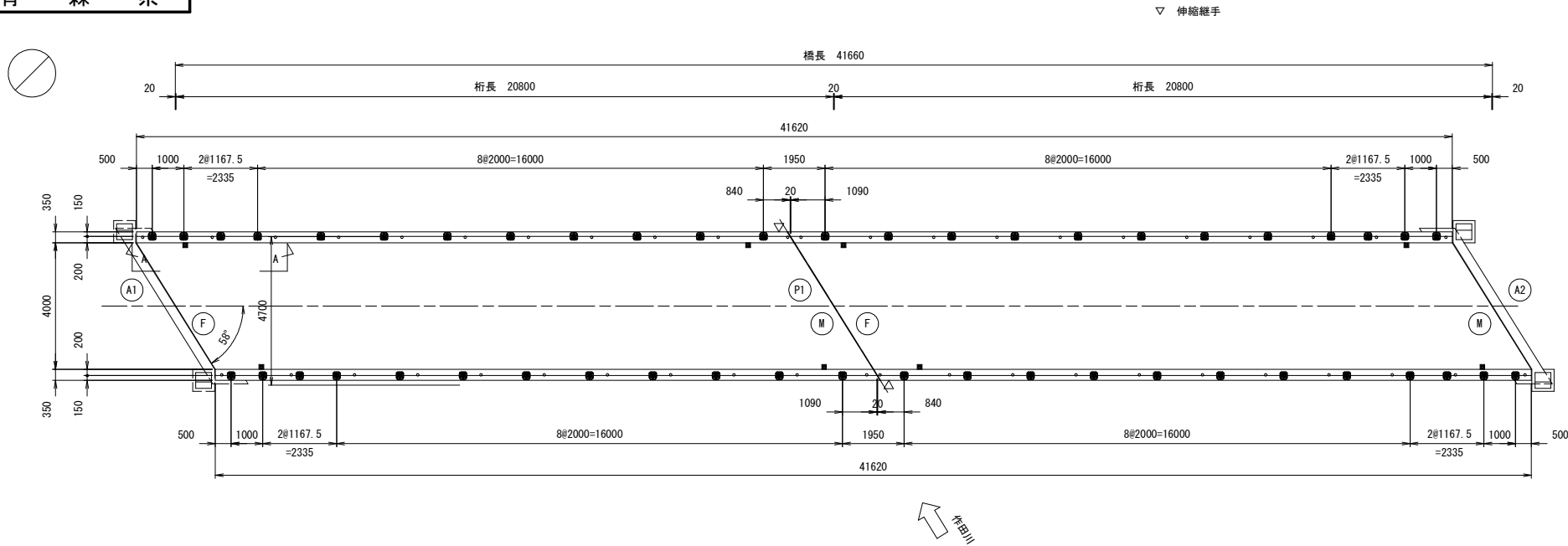
注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事に当たり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

令和 8 年度				橋梁補修		工事	
工事番号		第 50 号					
路線 河川		宇道坂橋					
施工箇所		七戸町宇後川原 地内					
防護柵補修工図 (その2)				縮尺		図示	
図面番号		14 葉中 4					
七 戸 町							
青 森 県							

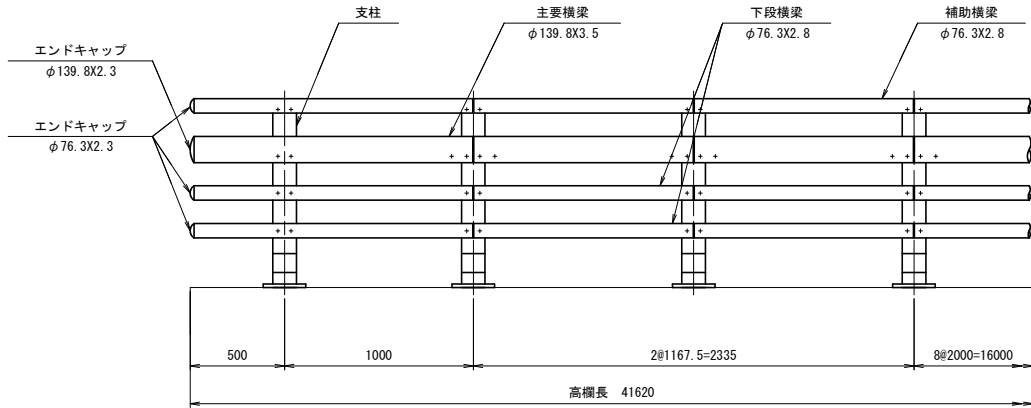
宇道坂橋 防護柵補修工図（その2）

防護柵設置工

平面図 S=1:100
(寸法線は主要横梁中心線上で実長を示す)



高欄取付図 S=1:20



材 料 表

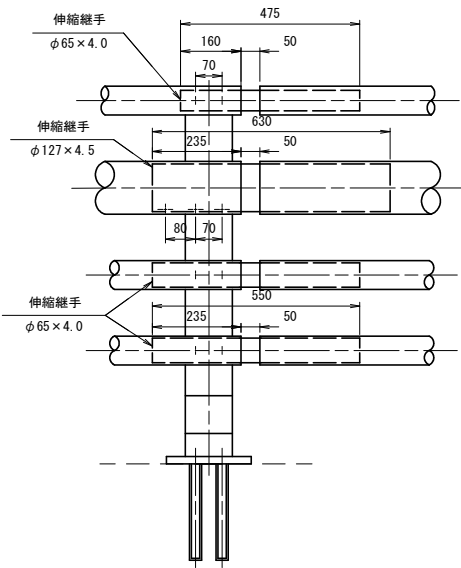
品 名	寸 法	材 質	数 量	単 重	重 量	備 考
支 柱	230X225	SS400	48	18.5 Kg/本	888	
主 要 横 梁	φ139.8X3.5X2082.5	STK400	2	11.8 Kg/m	49	
主 要 横 梁	φ139.8X3.5X1995	STK400	30	11.8 Kg/m	706	
主 要 横 梁	φ139.8X3.5X1812.5	STK400	2	11.8 Kg/m	43	
主 要 横 梁	φ139.8X3.5X1477.5	STK400	4	11.8 Kg/m	70	
主 要 横 梁	φ139.8X3.5X1162.5	STK400	8	11.8 Kg/m	110	
下 段 横 梁	φ76.3X2.8X2082.5	STK400	4	5.08 Kg/m	42	
下 段 横 梁	φ76.3X2.8X1995	STK400	60	5.08 Kg/m	608	
下 段 横 梁	φ76.3X2.8X1812.5	STK400	4	5.08 Kg/m	37	
下 段 横 梁	φ76.3X2.8X1477.5	STK400	8	5.08 Kg/m	60	
下 段 横 梁	φ76.3X2.8X1162.5	STK400	16	5.08 Kg/m	94	
補 助 横 梁	φ76.3X2.8X2082.5	STK400	2	5.08 Kg/m	21	
補 助 横 梁	φ76.3X2.8X1995	STK400	30	5.08 Kg/m	304	
補 助 横 梁	φ76.3X2.8X1812.5	STK400	2	5.08 Kg/m	18	
補 助 横 梁	φ76.3X2.8X1477.5	STK400	4	5.08 Kg/m	30	
補 助 横 梁	φ76.3X2.8X1162.5	STK400	8	5.08 Kg/m	47	
継 手	φ127X4.5X300	STK400	42	13.6 Kg/m	171	
継 手	φ65X4.0X300	STK400	84	6.02 Kg/m	152	
継 手	φ65X4.0X150	STK400	42	6.02 Kg/m	38	
伸 縮 継 手	φ127X4.5X630	STK400	2	13.6 Kg/m	17	
伸 縮 継 手	φ65X4.0X550	STK400	4	6.02 Kg/m	13	
伸 縮 継 手	φ65X4.0X475	STK400	2	6.02 Kg/m	6	
エンドキャップ	φ139.8X2.3	SPCC	4	0.35 Kg/コ	1	
エンドキャップ	φ76.3X2.3	SPCC	12	0.19 Kg/コ	2	
セットボルト	M18X35 (B.W.SW)		470	0.15 Kg/本	71	
アンカーボルト	M22X310 (B.N.W.SW)		96	1.08 Kg/本	104	ケミカルアンカー
アンカーボルト	M20X190 (B.N.W.SW)		96	0.57 Kg/本	55	ケミカルアンカー
					Σ =	3757 kg
高 欄 長 = 83240						
R 加 工 = 0						
勾 配 エ キ ス ト ラ = 0						
伸 縮 継 手 = 2						
突 合 せ 加 工 = 0						

注記

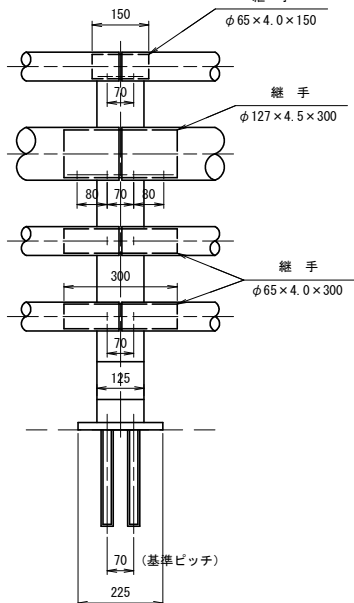
- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当たり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- 本図面にて表面処理は、塗装仕様としている。表面処理を変更する場合は、協議を行うこと。
- 支柱の製作購買は、0%としている。再度現地計測を行って確認すること。
- 橋梁用ビーム型防護柵は(一社)全国高欄協会にて認定された静荷重試験機により、性能確認された製品とする。

高欄詳細図 S=1:10

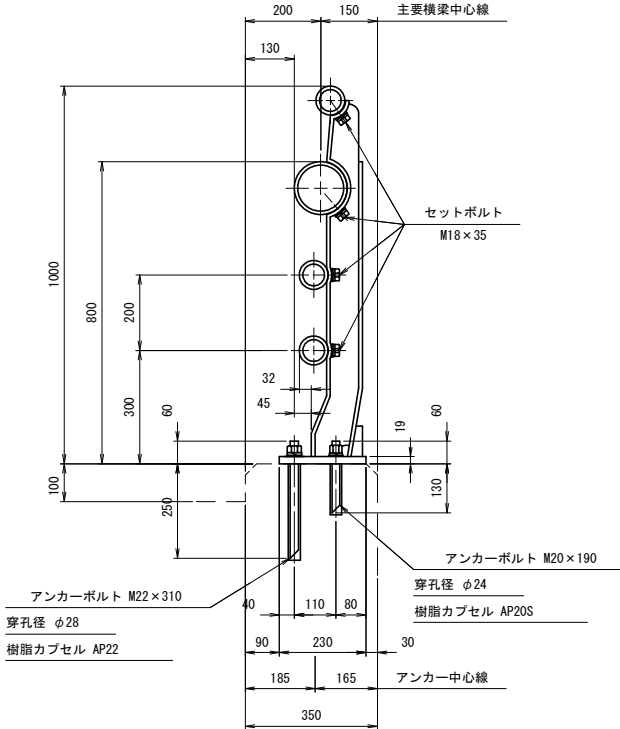
伸縮継手部



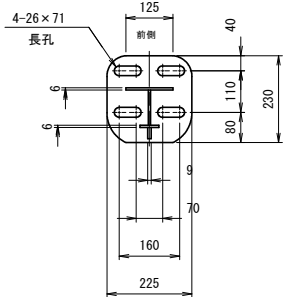
標準継手部



◎ 鉄筋と干渉しない場合は、
基準ピッチとする。



ベースプレート

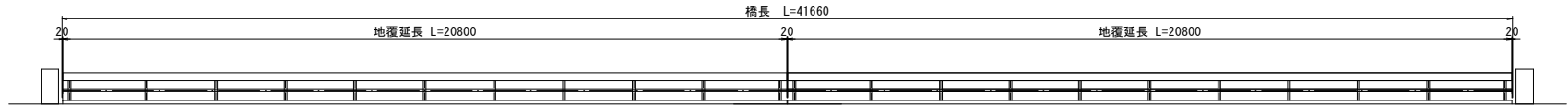


令和 8 年度 橋梁補修 工事			
工事番号	第 50 号		
路線 河川 名	宇道坂橋		
施工箇所	七戸町字後川原 地内		
地覆補修工図 (その1)	縮尺	図示	
図面番号	14	葉中	5
七 戸 町			
青 森 県			

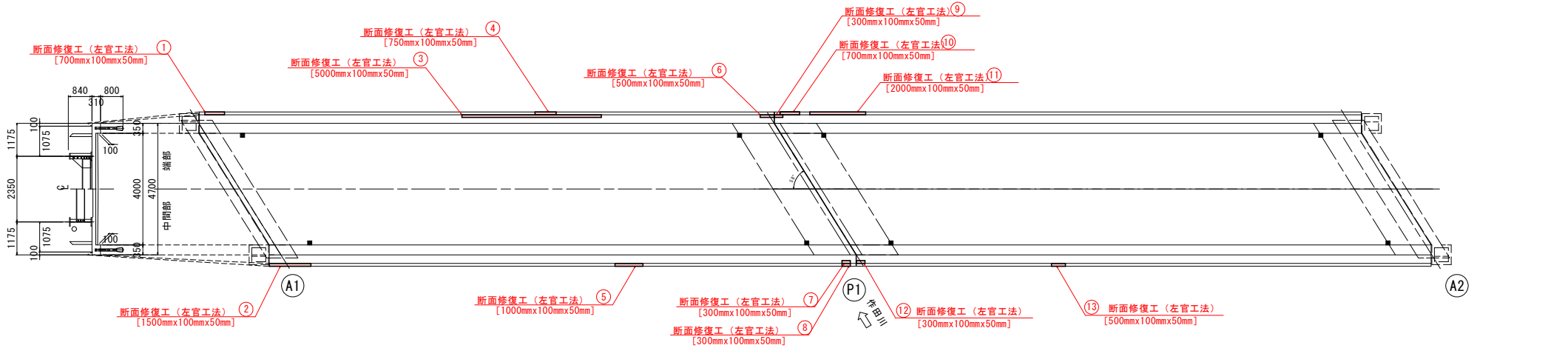
宇道坂橋 地覆補修工図（その1）

断面修復工

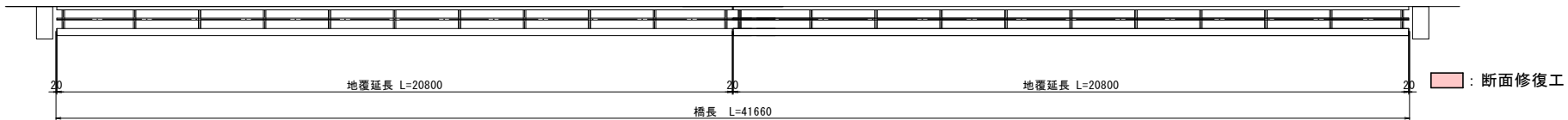
G1側側面図 S=1:100



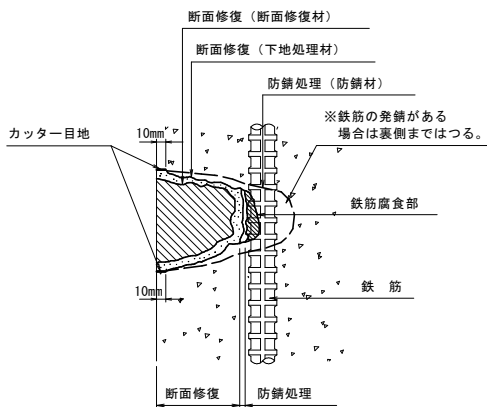
平面図 S=1:100



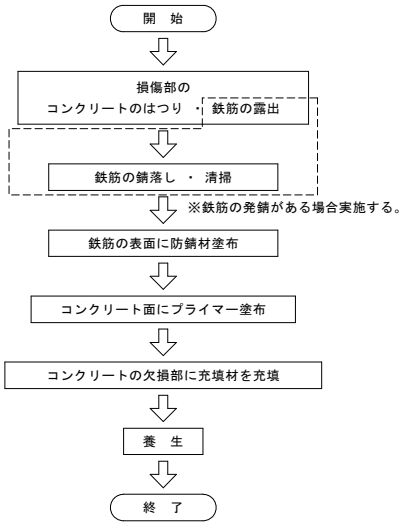
G2側側面図 S=1:100



断面修復工〔左官工法〕



断面修復の施工フロー



断面修復工 数量表

(ポリマーセメントモルタル)

工 法	箇 所	寸 法	数 量
左官工法	地覆	第1径間	① 0.700 x 0.100 x 0.050 = 0.004 m ³
			② 1.500 x 0.100 x 0.050 = 0.008 m ³
			③ 5.000 x 0.100 x 0.050 = 0.025 m ³
			④ 0.750 x 0.100 x 0.050 = 0.004 m ³
			⑤ 1.000 x 0.100 x 0.050 = 0.005 m ³
			⑥ 0.500 x 0.100 x 0.050 = 0.003 m ³
			⑦ 0.300 x 0.100 x 0.050 = 0.002 m ³
			⑧ 0.300 x 0.100 x 0.050 = 0.002 m ³
			小計 = 0.053 m ³
		第2径間	⑨ 0.300 x 0.100 x 0.050 = 0.002 m ³
			⑩ 0.700 x 0.100 x 0.050 = 0.004 m ³
			⑪ 2.000 x 0.100 x 0.050 = 0.010 m ³
			⑫ 0.300 x 0.100 x 0.050 = 0.002 m ³
			⑬ 0.500 x 0.100 x 0.050 = 0.003 m ³
			小計 = 0.021 m ³
			合計 = 0.07 m ³

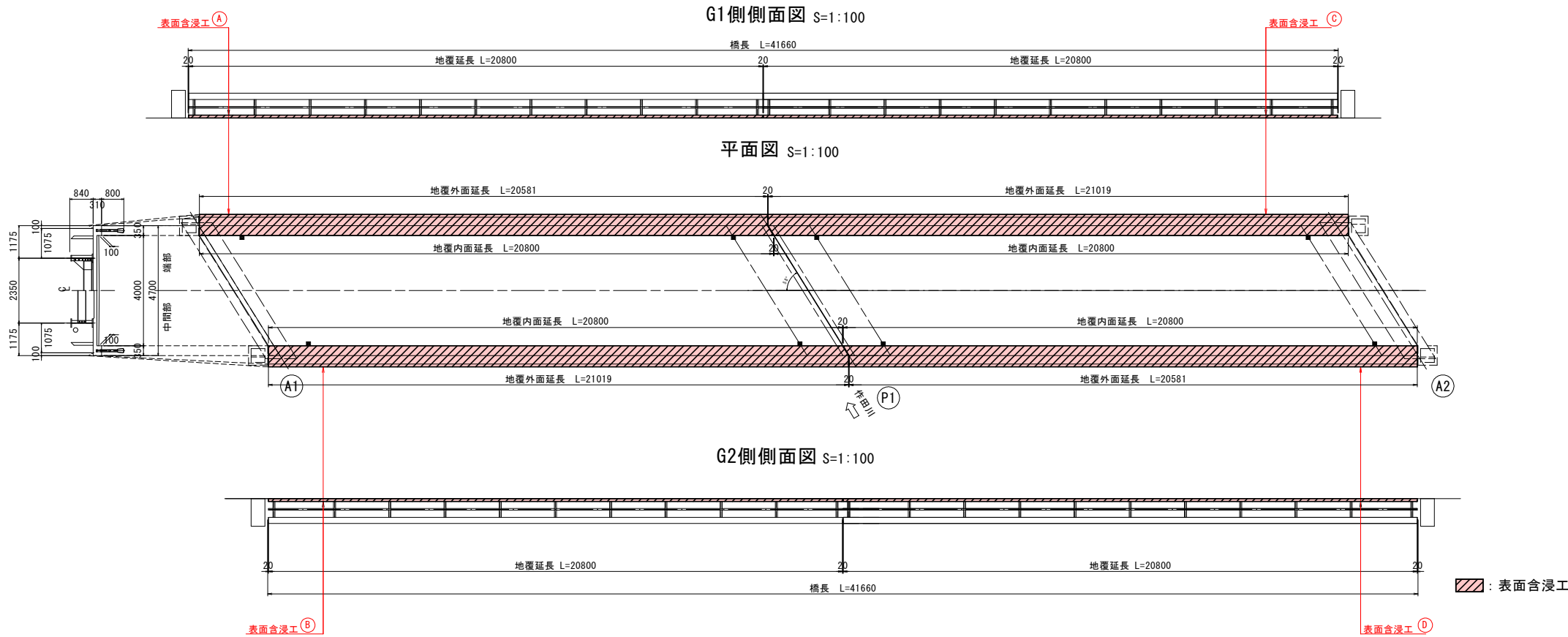
注記

- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当たり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- コンクリートの脆弱部は確実にはつり落とし、補修を行うこと。
はつりは最低50mm以上は行うこと。はつり後の断面にひび割れが確認される場合は、ひび割れを補修した後、断面修復を行うこと。
- 表記箇所以外に損傷が確認された場合は、同様の補修を行うこと。

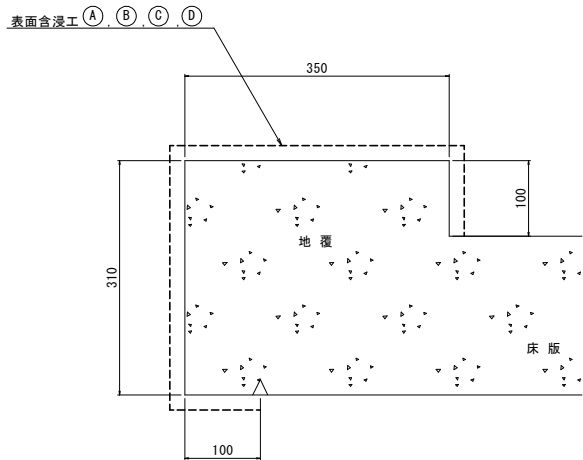
令和 8 年度 橋梁補修 工事			
工事番号		第 50 号	
路線 名 河川		宇道坂橋	
施工箇所		七戸町宇後川原 地内	
地覆補修工図 (その2)		縮尺	図示
図面番号	14 葉中 6		
七 戸 町			
青 森 県			

宇道坂橋 地覆補修工図（その2）

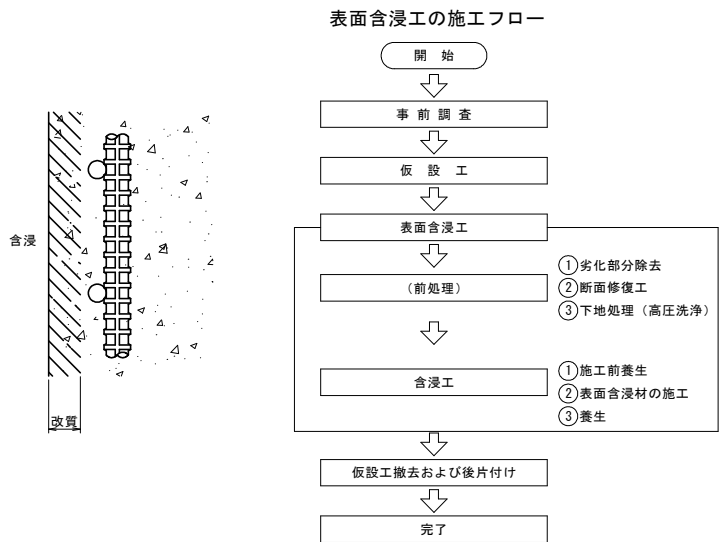
表面処理工



地覆断面図 S=1:5



表面含浸工



表面含浸工 数量表

工 法		箇 所		寸 法		数 量	
表面含浸工	地覆	第1区間	①	(0.100+0.310) x 20.581+0.35x (20.581+20.800)/2+0.100x20.800	=	17.760	m ²
			②	(0.100+0.310) x 21.019+0.35x (21.019+20.800)/2+0.100x20.800	=	18.016	m ²
		小計		=	35.8	m ²	
		第2区間	③	(0.100+0.310) x 21.019+0.35x (21.019+20.800)/2+0.100x20.800	=	18.016	m ²
			④	(0.100+0.310) x 20.581+0.35x (20.581+20.800)/2+0.100x20.800	=	17.760	m ²
		合計		=	71.6	m ²	

表面含浸材の施工仕様例

工 程	標準使用量 (kg/m ²)	施工方法	塗重ねの工程間隔
下地処理および清掃	別途	—	—
1 けい酸リチウム系シラン複合型表面含浸撥水材	0.15	ローラー塗り、ハケ塗り	—

注記

- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当たり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- 表面含浸工を適応する場合、無色透明であり実施可否がコンクリート表面で判断できない為、「補修履歴板」等で実施日を明示すること。
- 表面含浸材の標準使用量や塗布日数は、施工部位、コンクリートの状態、材料の性状等によって決めること。
- 表面含浸工の施工面は、乾燥状態で表面含浸材を塗布すること。

令和 8 年度 橋梁補修 工事		
工事番号	第 50 号	
路線 名	宇道坂橋	
施工箇所	七戸町宇後川原 地内	
地覆補修工図 (その3)	縮尺	図示
図面番号	14 葉中 7	
七 戸 町		
青 森 県		

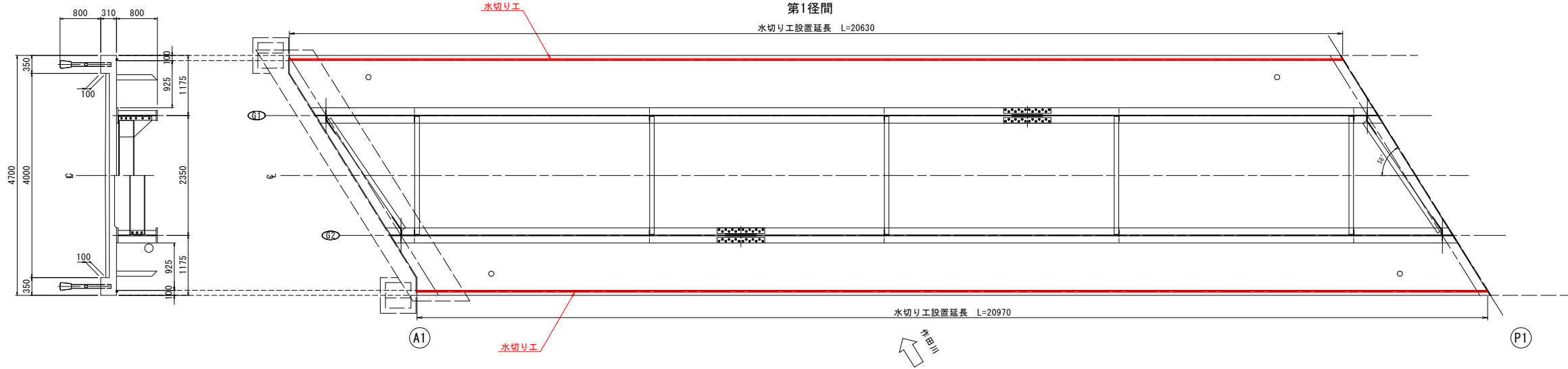
宇道坂橋 地覆補修工図（その3）

水切り工

平面図 S=1:50

第1径間

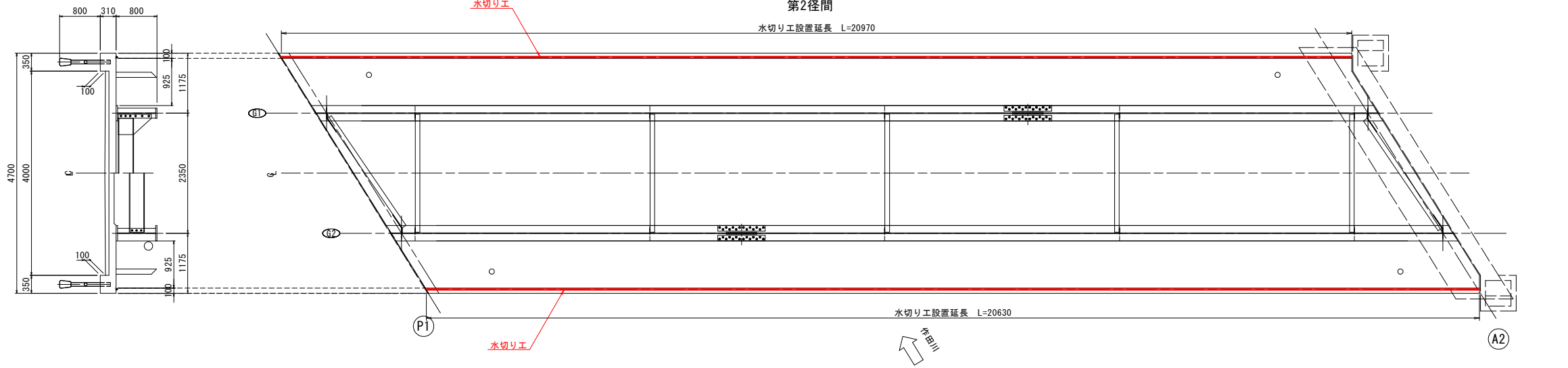
水切り工設置延長 L=20630



平面図 S=1:50

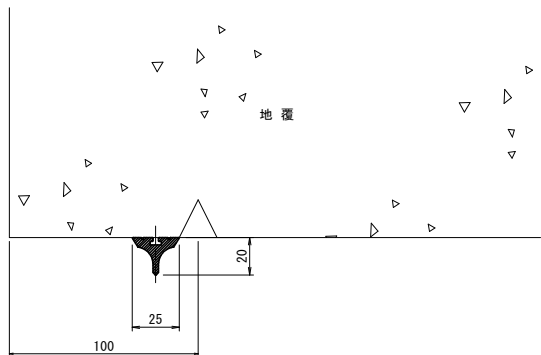
第2径間

水切り工設置延長 L=20970



水切り工 S=1:2

水切り材断面図



材質：EPDMゴムスポンジ（ライトグレー重量） 80g±10g/m

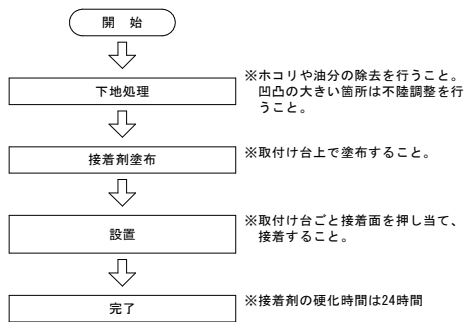
材料表

材 質	EPDM系ゴム
重 量	80g/m

数量表

水切り材	84本
接着剤	13本

水切り工のフローチャート



注記

- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

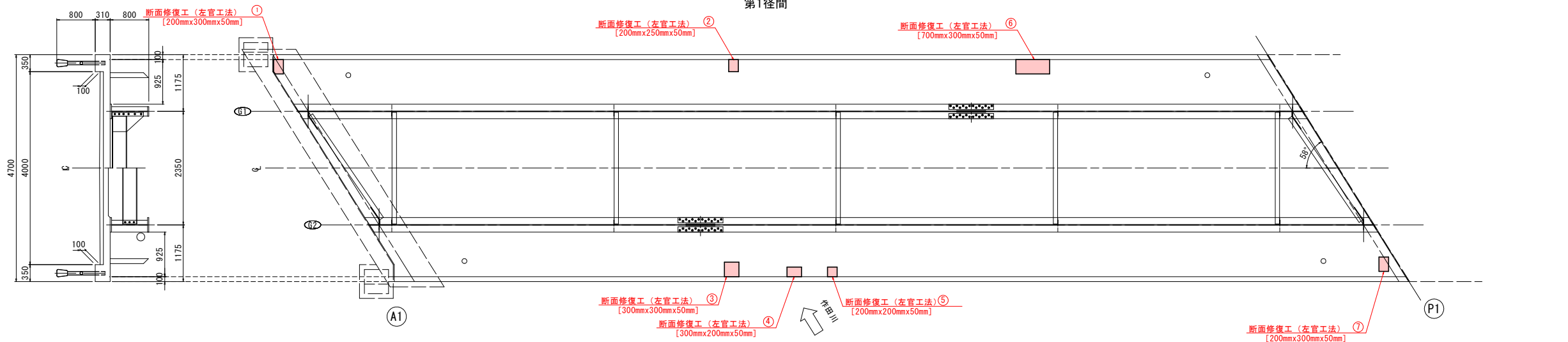
令和 8 年度			橋梁補修		工事	
工事番号		第 50 号				
路線名		宇道坂橋				
施工箇所		七戸町宇後川原 地内				
床版補修工図 (その1)		縮尺		図示		
図面番号		14 葉中 8				
七 戸 町						
青 森 県						

宇道坂橋 床版補修工図（その1）

断面補修工、ひび割れ補修工

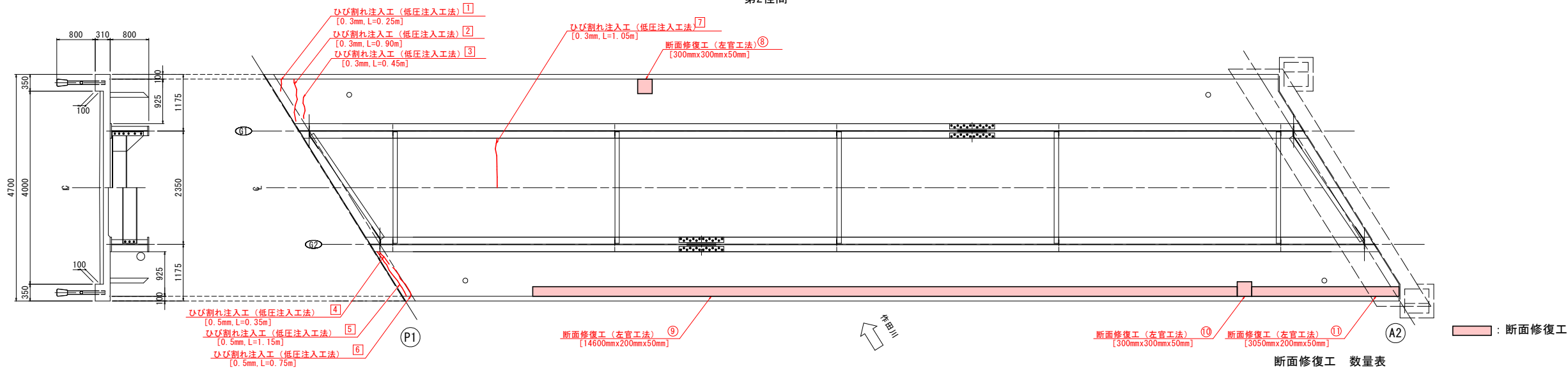
平面図 S=1:50

第1径間

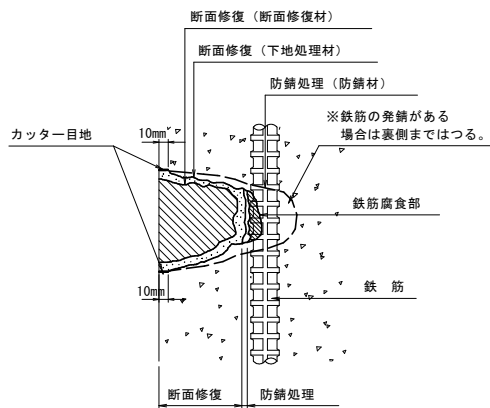


平面図 S=1:50

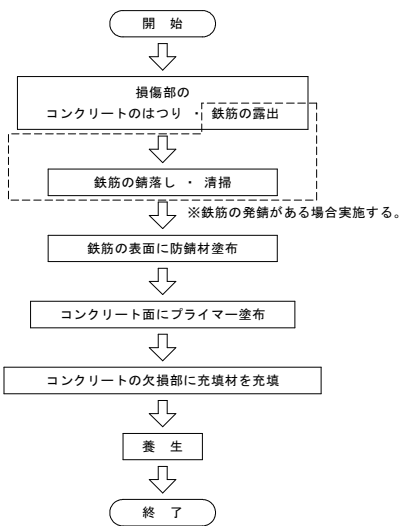
第2径間



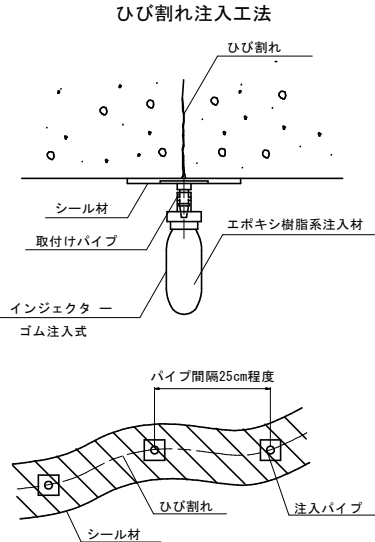
断面修復工〔左官工法〕



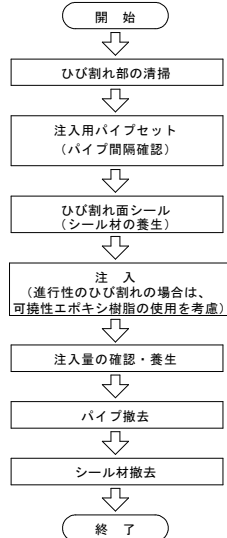
断面修復の施工フロー



ひび割れ注入概要図



ひび割れ注入工のフローチャート



注記

- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当たり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- コンクリートの脆弱部は確実にはつり落とし、補修を行うこと。はつりは最低50mm以上は行うこと。はつり後の断面にひび割れが確認される場合は、ひび割れを補修した後、断面修復を行うこと。
- 表記箇所以外に損傷が確認された場合は、同様の補修を行うこと。

断面修復工 数量表

(ポリマーセメントモルタル)

工 法	箇 所	寸 法	数 量
左官工法	第1径間	① 0.200 x 0.300 x 0.050	= 0.003 m ³
		② 0.200 x 0.250 x 0.050	= 0.003 m ³
		③ 0.300 x 0.300 x 0.050	= 0.005 m ³
		④ 0.300 x 0.200 x 0.050	= 0.003 m ³
		⑤ 0.200 x 0.200 x 0.050	= 0.002 m ³
		⑥ 0.700 x 0.300 x 0.050	= 0.011 m ³
		⑦ 0.200 x 0.300 x 0.050	= 0.003 m ³
		小計	= 0.030 m ³
	第2径間	⑧ 0.300 x 0.300 x 0.050	= 0.005 m ³
		⑨ 14.600 x 0.200 x 0.050	= 0.146 m ³
		⑩ 0.300 x 0.300 x 0.050	= 0.005 m ³
		⑪ 3.050 x 0.200 x 0.050	= 0.031 m ³
		小計	= 0.187 m ³
		合計	= 0.22 m ³

ひび割れ注入工 数量表

(エポキシ樹脂系)

工 法	箇 所		番号	寸 法		数 量	
				幅	深さ	施工延長	施工量
ひび割れ注入工 (低圧注入工)	床版	第2径間	①	0.3	0.060	0.25 m	0.000005 m ³
			②	0.3	0.060	0.90 m	0.000016 m ³
			③	0.3	0.060	0.45 m	0.000008 m ³
			④	0.5	0.100	0.35 m	0.000018 m ³
			⑤	0.5	0.100	1.15 m	0.000058 m ³
			⑥	0.5	0.100	0.75 m	0.000038 m ³
			⑦	0.3	0.060	1.05 m	0.000019 m ³
						合計	4.9 m

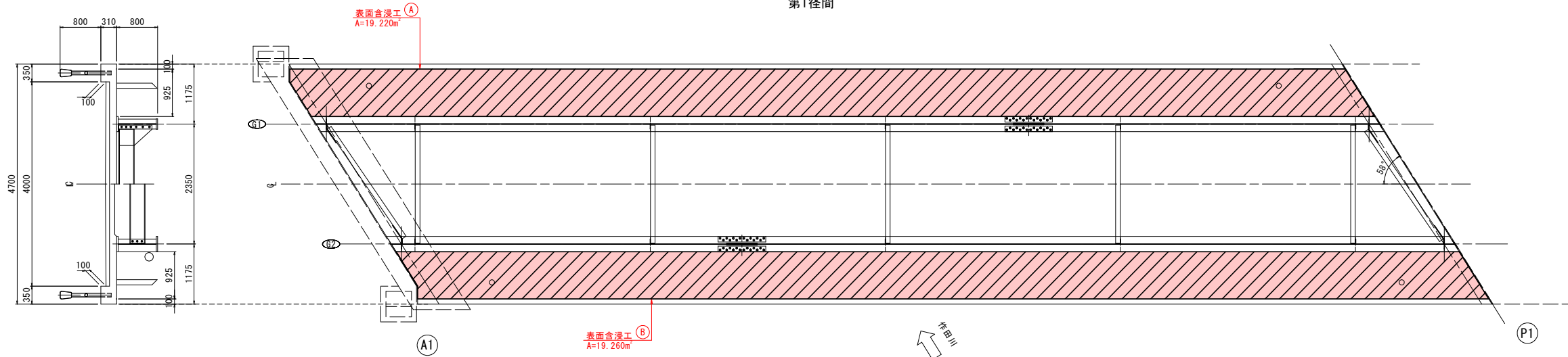
令和 8 年度			橋梁補修		工事	
工事番号		第 50 号				
路線 河川		宇道坂橋				
施工箇所		七戸町宇後川原 地内				
床版補修工図 (その2)		縮尺		図示		
図面番号		14 葉中 9				
七 戸 町						
青 森 県						

宇道坂橋 床版補修工図（その2）

表面処理工

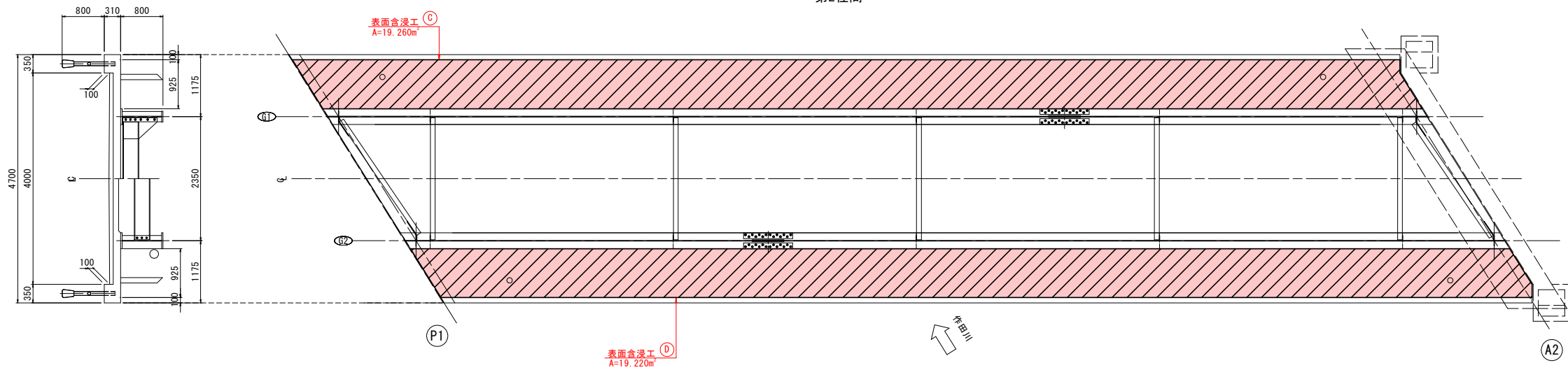
平面図 S=1:50

第1径間

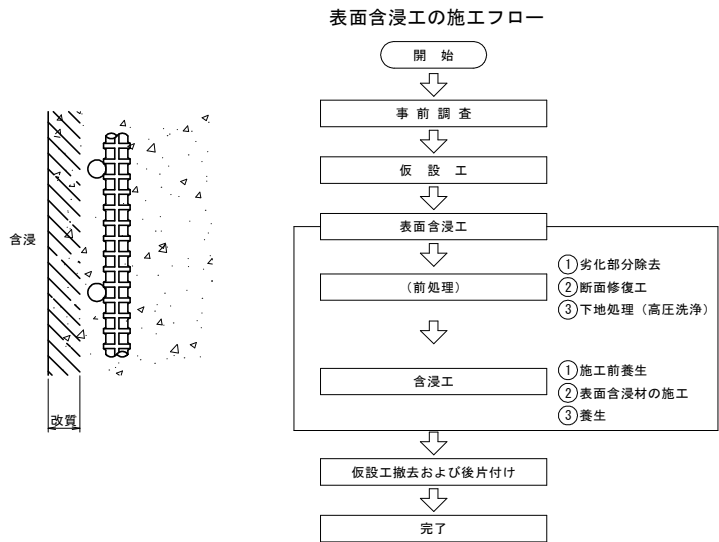


平面図 S=1:50

第2径間



表面含浸工



表面含浸工 数量表

(けい酸リチウム系シラン複合型表面含浸撥水材)

工 法	箇 所		寸 法	数 量
表面含浸工	地覆	第1径間	①	= 19.220 m ²
			②	= 19.260 m ²
		第2径間		小計 = 38.5 m ²
			③	= 19.260 m ²
			④	= 19.220 m ²
				小計 = 38.5 m ²
				合計 = 77.0 m ²

表面含浸材の施工仕様例

工 程	標準使用量 (kg/m ²)	施工方法	塗重ねの工程間隔
下地処理および清掃	別途	—	—
1 けい酸リチウム系シラン複合型表面含浸撥水材	0.15	ローラー塗り、ハケ塗り	—

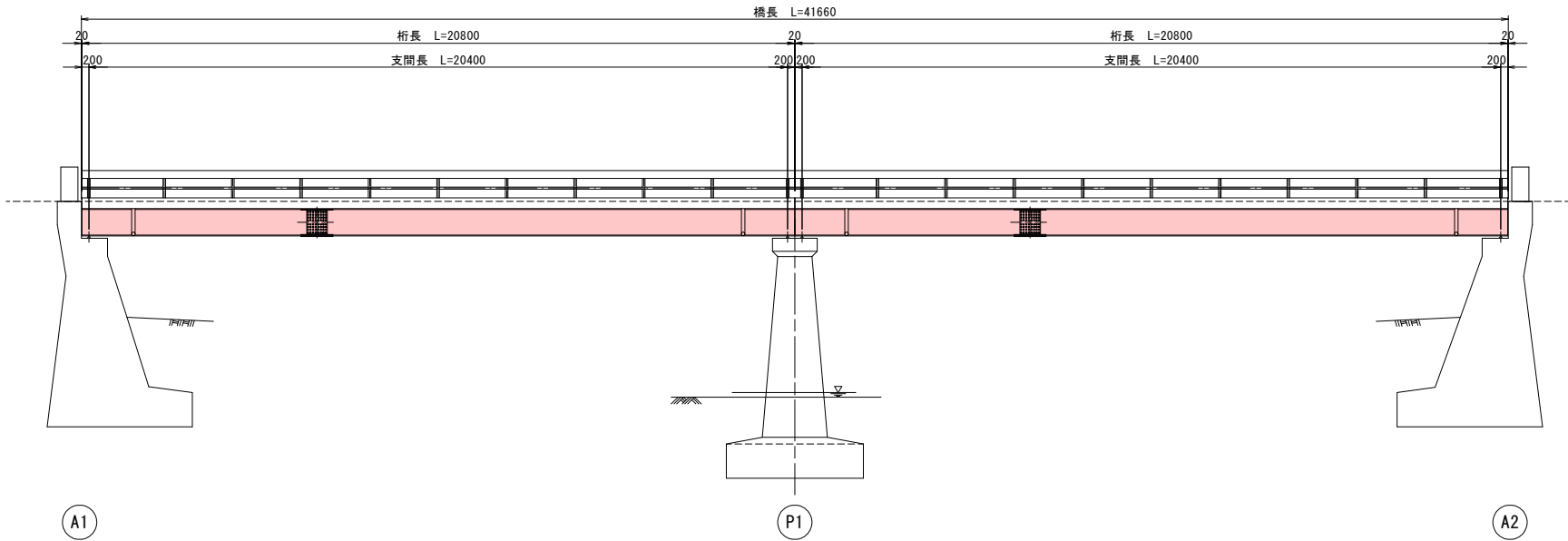
注記

- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- 表面含浸工を適応する場合、無色透明であり実施可否がコンクリート表面で判断できない為、「補修履歴板」等で実施日を明示すること。
- 表面含浸材の標準使用量や塗布日数は、施工部位、コンクリートの状態、材料の性状等によって決めること。
- 表面含浸工の施工面は、乾燥状態で表面含浸材を塗布すること。

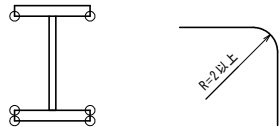
令和 8 年度				橋梁補修		工事	
工事番号			第 50 号				
路線 河川		宇道坂橋					
施工箇所		七戸町宇後川原 地内					
主桁表面処理工図 (その1)			縮尺		図示		
図面番号		14 葉中 10					
七 戸 町							
青 森 県							

宇道坂橋 主桁表面処理工（その1）

側 面 図 S=1:100

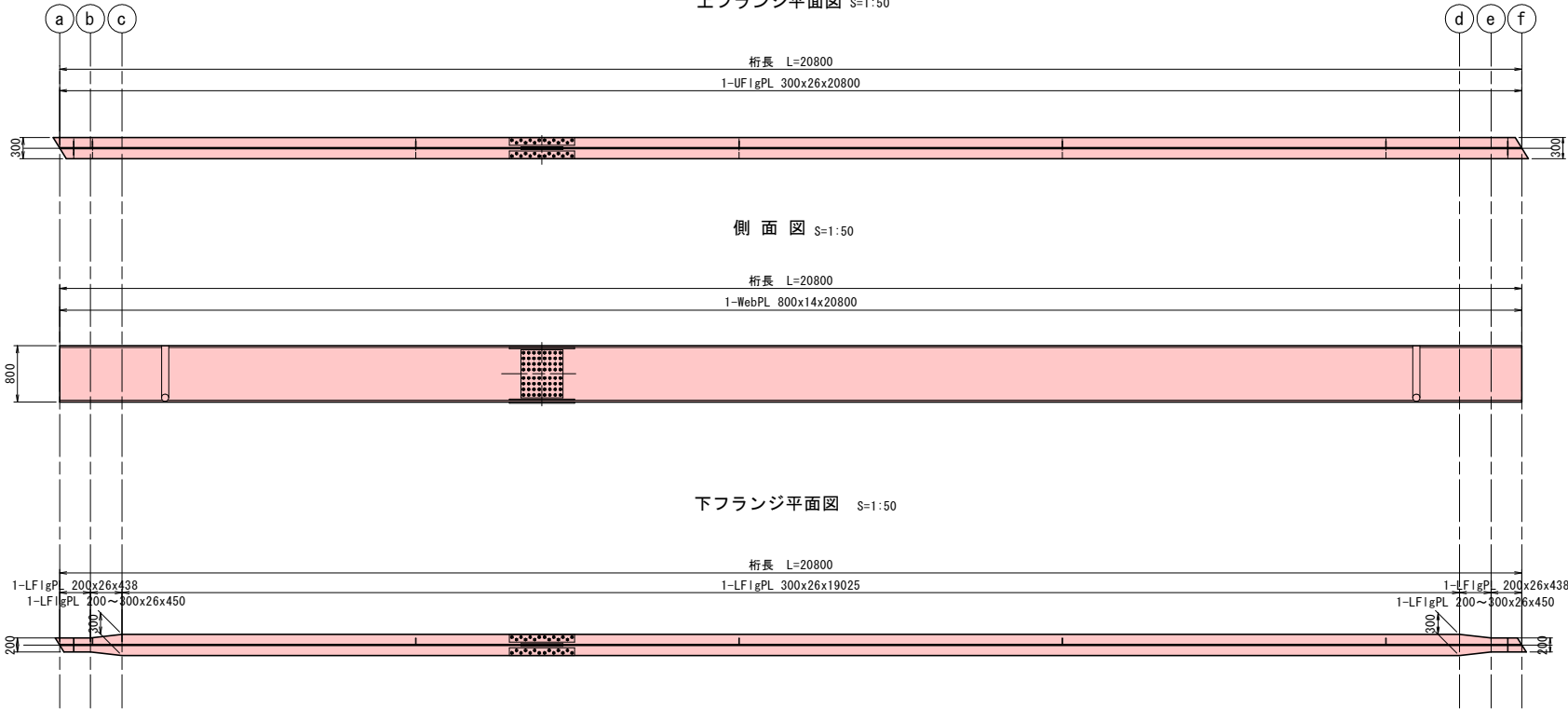


エッジ部曲面仕上げ



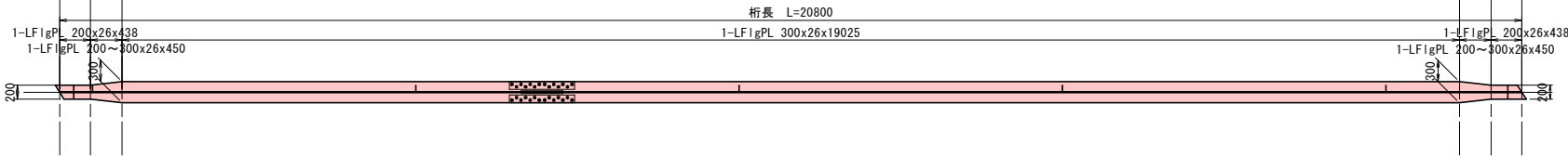
- ※ エッジ部は膜厚が確保されにくいことから、一般部と同等の塗膜性能を確保するため2R以上の面取りを行い、曲面仕上げとすること。
(上フランジ・下フランジエッジ部：6角を対象とする)
また、曲面仕上げを行ったエッジ部は、以下に留意し先行塗装を行う。
- ① 各層での膜厚不足を回避するため、先行塗装は各層で行うこと。
 - ② 先行塗装は一般部と同じ膜厚とする。また、膜厚過多による硬化不良を起こさないことに注意し、本塗りと同じ日施工でも構わないこととする。

上フランジ平面図 S=1:50

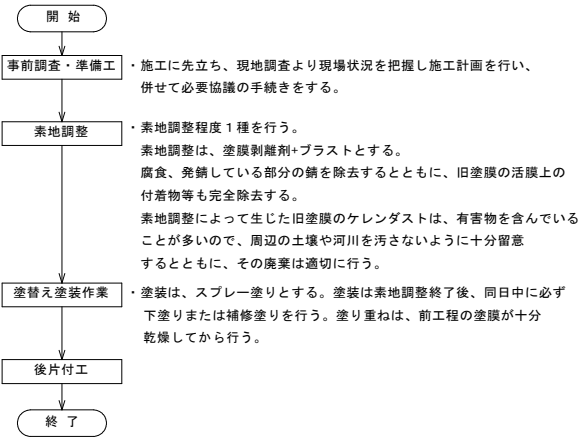


側 面 図 S=1:50

下フランジ平面図 S=1:50



施 工 手 順



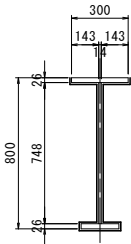
Rc-I塗装系（スプレー）

塗装工程	塗 料 名	使用量 (g/m) ²	塗装間隔
素地調整	塗膜剥離剤、1種ケレン		4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント	600	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1日～10日
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1日～10日

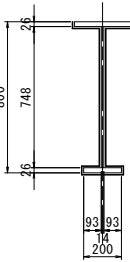
- ※1:原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。
※2:現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。
※3:プラスト処理による除せいでISO Sa 2 1/2とする。

断 面 図
S=1:20

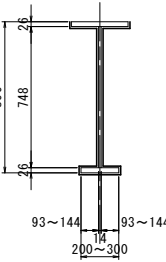
a～f
(上フランジ)



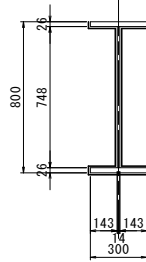
a～b, e～f
(下フランジ)



b～c, d～e
(下フランジ)



c～d
(下フランジ)



注記

1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
3. 再塗装の色は監督職員と協議して決定すること。

令和 8 年度		橋梁補修		工事	
工事番号		第 50 号			
路線 名		宇道坂橋			
河川					
施工箇所		七戸町宇後川原 地内			
主桁表面処理工図 (その2)		縮尺		図示	
図面番号		14 葉中		11	
七 戸 町					
青 森 県					

宇道坂橋 主桁表面処理工（その2）

横 桁
第1径間、第2径間

正 面 図 S=1:30

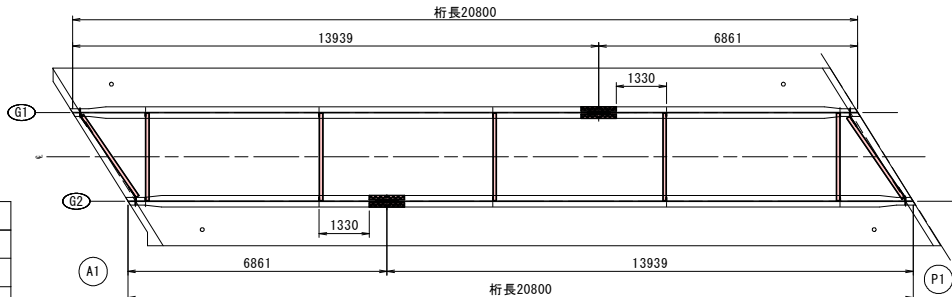
端横桁

横 桁

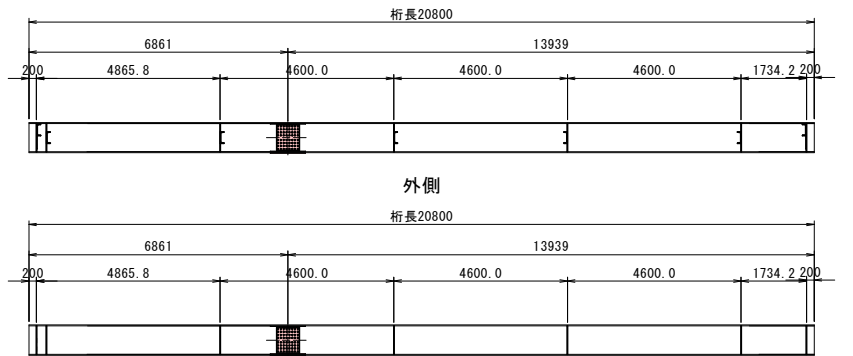
数量表（1径間当たり）

工 法	箇 所		寸 法	数 量
鋼部材再塗装工	端横桁		[-300x90x9x13x2600	2
	横桁		[-300x90x9x13x2310	5
	垂直補剛材	支 点 部	PL 90x9x748	8
			PL 400x12x650	4
			BOLT M20	24
		中 間 部	PL 90x9x748	10
			BOLT M20	30
	添接板	上フランジ部	PL 110x16x930	4
			BOLT M22	56
		ウェ ブ 部	PL 600x12x680	4
			BOLT M22	128
		下フランジ部	PL 110x16x930	4
			PL 300x16x930	2
			BOLT M22	56

平 面 図 S=1:100
第1径間、第2径間



側 面 図 S=1:100
第1径間、第2径間
内側



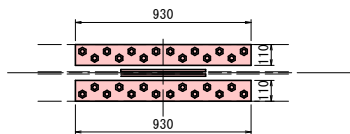
横桁詳細図 S=1:10

端横桁

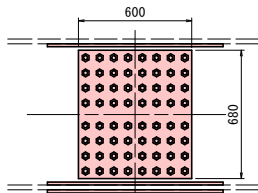
横 桁

添接板詳細図 S=1:20

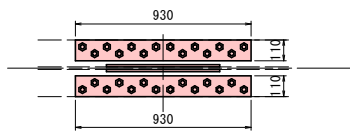
上フランジ平面図
(下面)



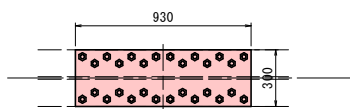
ウェブ側面図



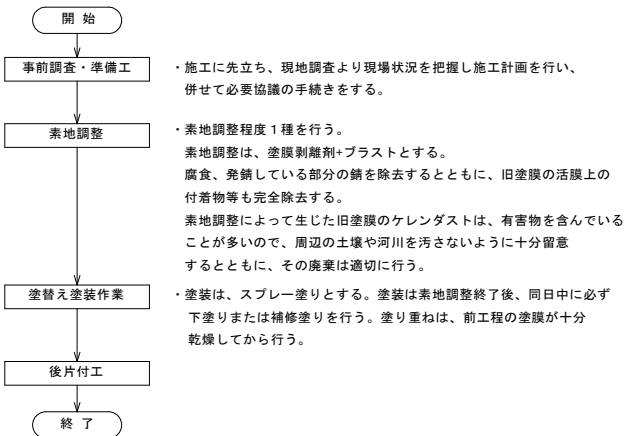
下フランジ平面図
(上面)



(下面)



施 工 手 順



Rc-I塗装系（スプレー）

塗装工程	塗 料 名	使用量 (g/m) ²	塗装間隔
素地調整	塗膜剥離剤、1種ケレン		4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント	600	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1日～10日
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1日～10日

※1:原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。
※2:現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。
※3:プラスト処理による除せいでISO Sa 2 1/2とする。

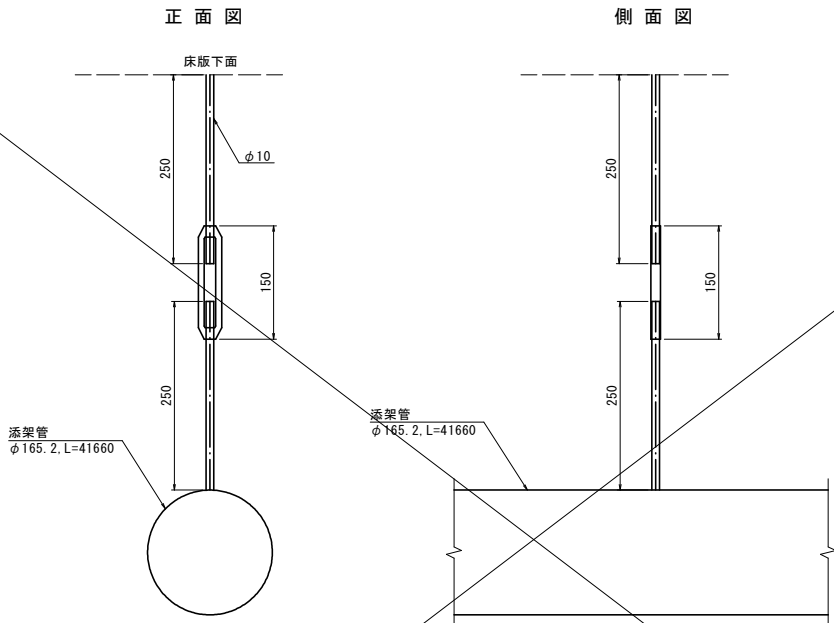
注 記

1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
3. 再塗装の色は監督職員と協議して決定すること。

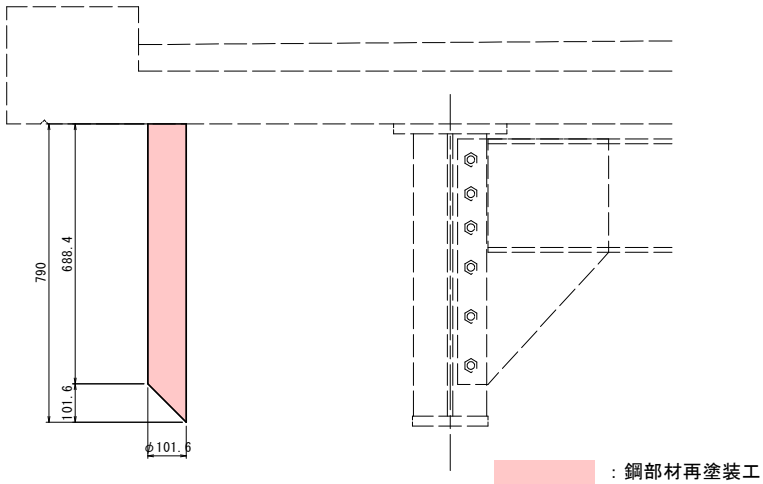
令和 8 年度		橋梁補修		工事	
工事番号		第 50 号			
路線 名		宇道坂橋			
河川					
施工箇所		七戸町宇後川原 地内			
主桁表面処理工図 (その3)		縮尺		図示	
図面番号		14 葉中 12			
七 戸 町					
青 森 県					

宇道坂橋 主桁表面処理工図（その3）

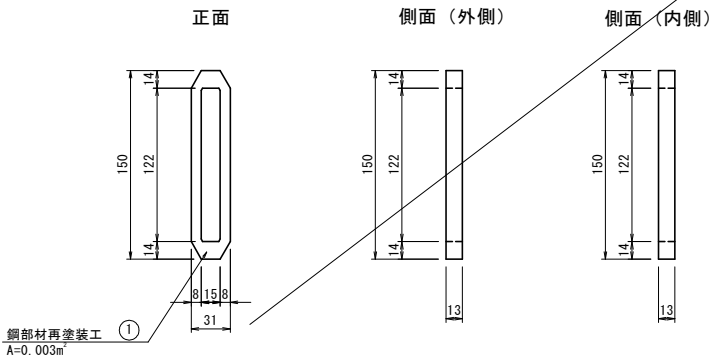
添架管詳細図 S=1:5



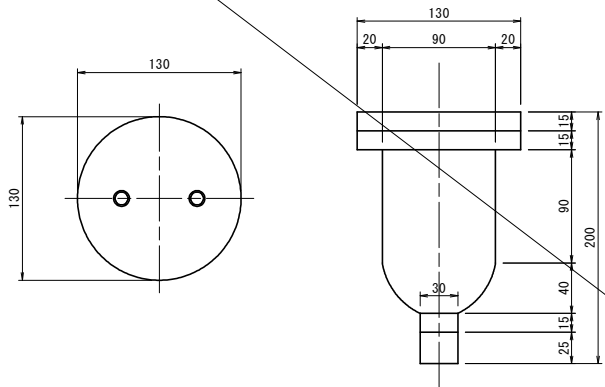
排水管詳細図
第1径間、第2径間
側面図 S=1:10



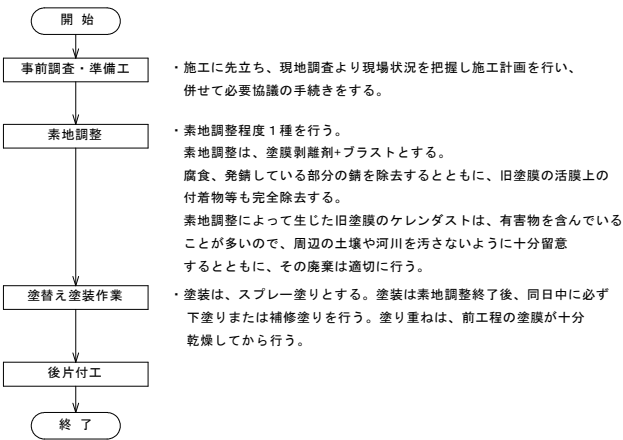
添架管吊り金具詳細図 S=1:3



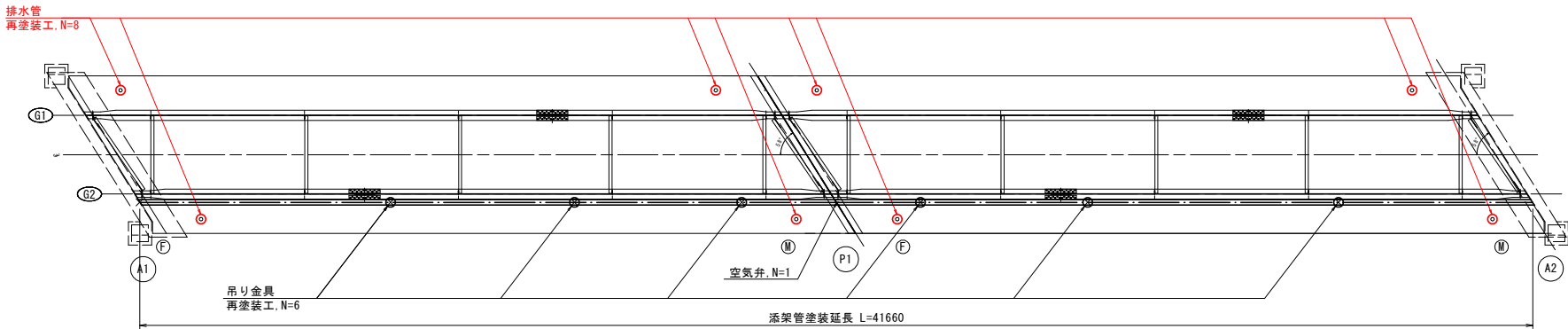
空気弁詳細図 S=1:3



施工手順



位置図 S=1:100



Rc-I塗装系（スプレー）

塗装工程	塗料名	使用量 (g/m) ²	塗装間隔
素地調整	塗膜剥離剤、1種ケレン		4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント	600	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1日～10日
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1日～10日

※1: 原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。
※2: 現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。
※3: プラスト処理による除せいでISO Sa 2 1/2とする。

注記

1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
3. 再塗装の色は監督職員と協議して決定すること。

令和 8 年度				橋梁補修		工事	
工事番号			第 50 号				
路線名		宇道坂橋					
河川							
施工箇所		七戸町宇後川原 地内					
主桁表面処理工図 (その4)			縮尺		図示		
図面番号		14 葉中 13					
七 戸 町							
青 森 県							

宇道坂橋 主桁表面処理工図（その4）

支承詳細図 S=1:5

固定支承

可動支承

正面図

側面図

正面図

側面図

外側

内側

外側

内側

平面図

平面図

下着

上着

下着

上着

位置図 S=1:100

施工手順

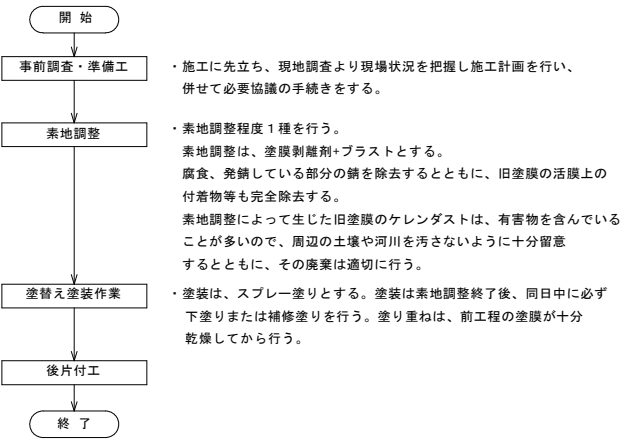
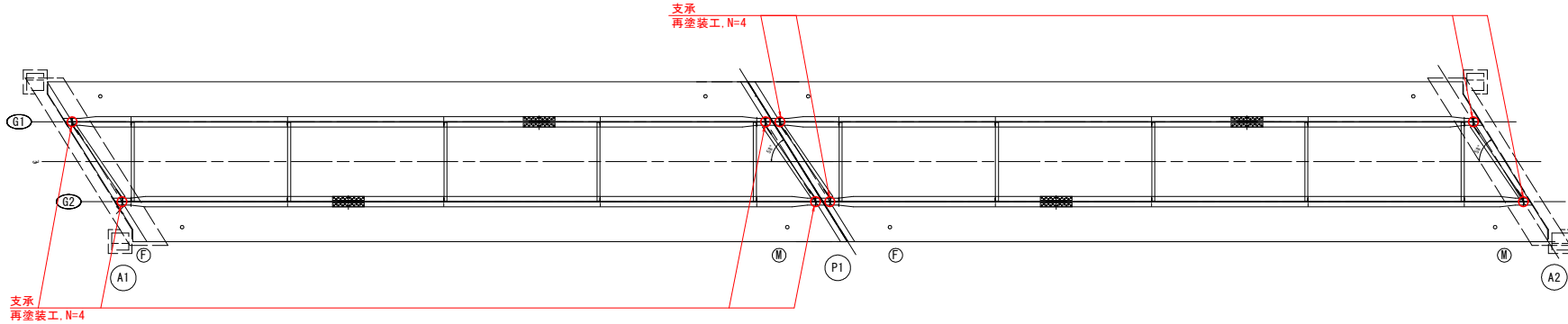
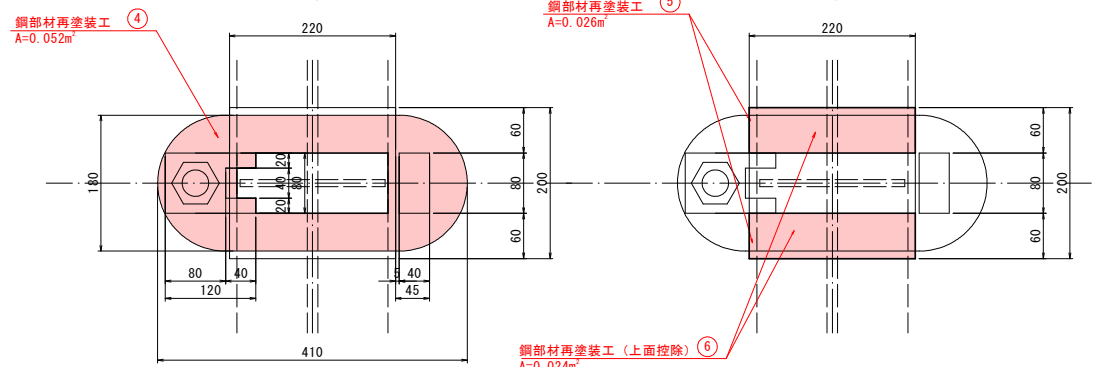
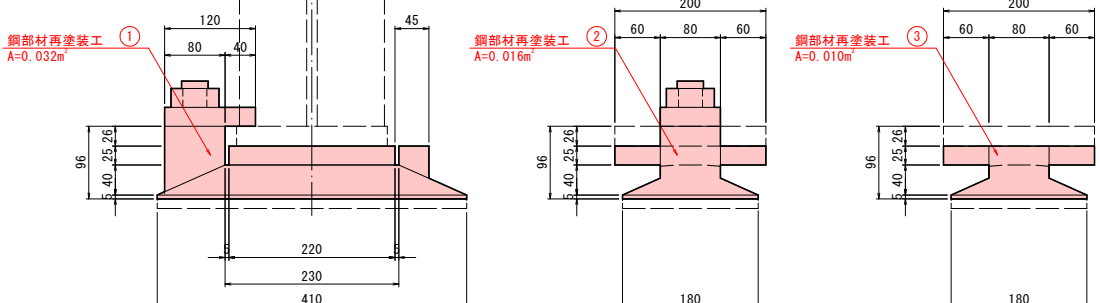
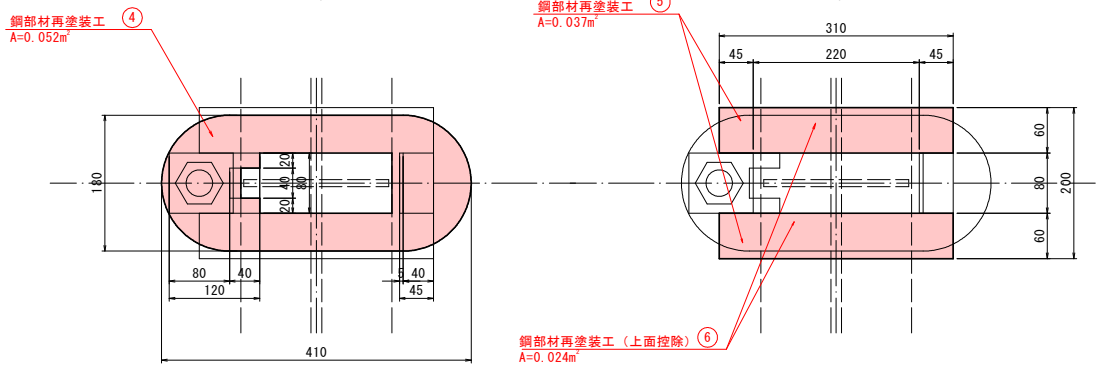
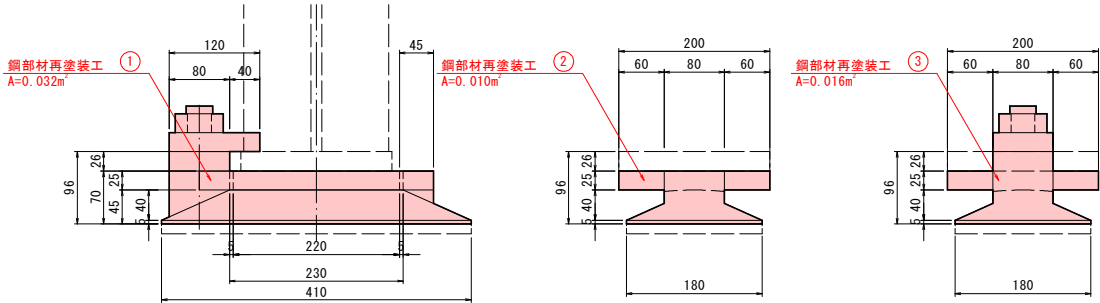
Rc-I塗装系（スプレー）

塗装工程	塗 料 名	使用量 (g/m) ²	塗装間隔
素地調整	塗膜剥離剤、1 種ケレン		4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント	600	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1日～10日
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1日～10日

※1:原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。
※2:現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。
※3:プラスチック処理による除せいでISO Sa 2 1/2とする。

注記

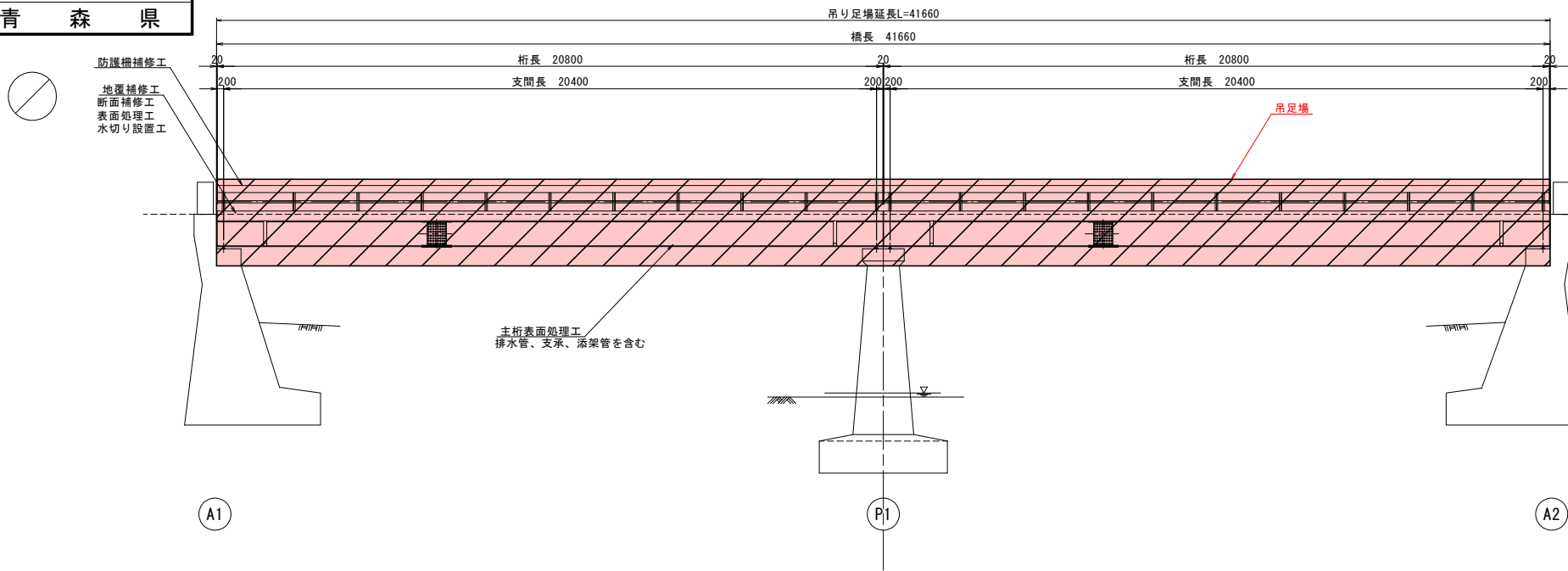
- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- 再塗装の色は監督職員と協議して決定すること。



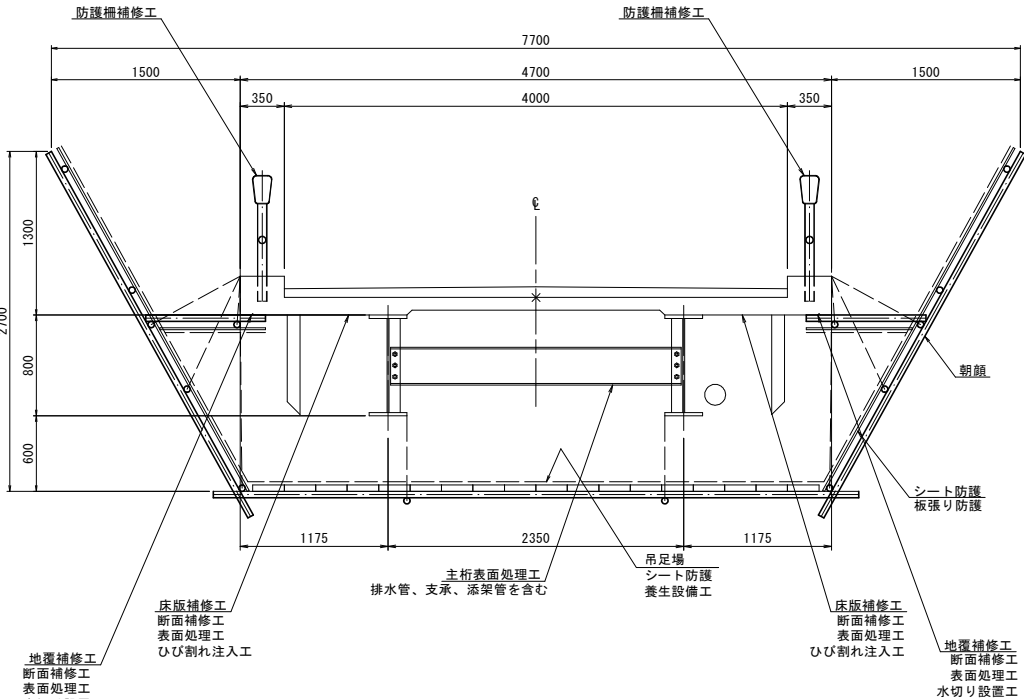
令和 8 年度 橋梁補修 工事		
工事番号	第 50 号	
路線 河川 名	宇道坂橋	
施工箇所	七戸町宇後川原 地内	
施工計画図 (案)	縮尺	図示
図面番号	14 葉中 14	
七 戸 町		
青 森 県		

宇道坂橋 施工計画図 (案)

側 面 図 S=1:100

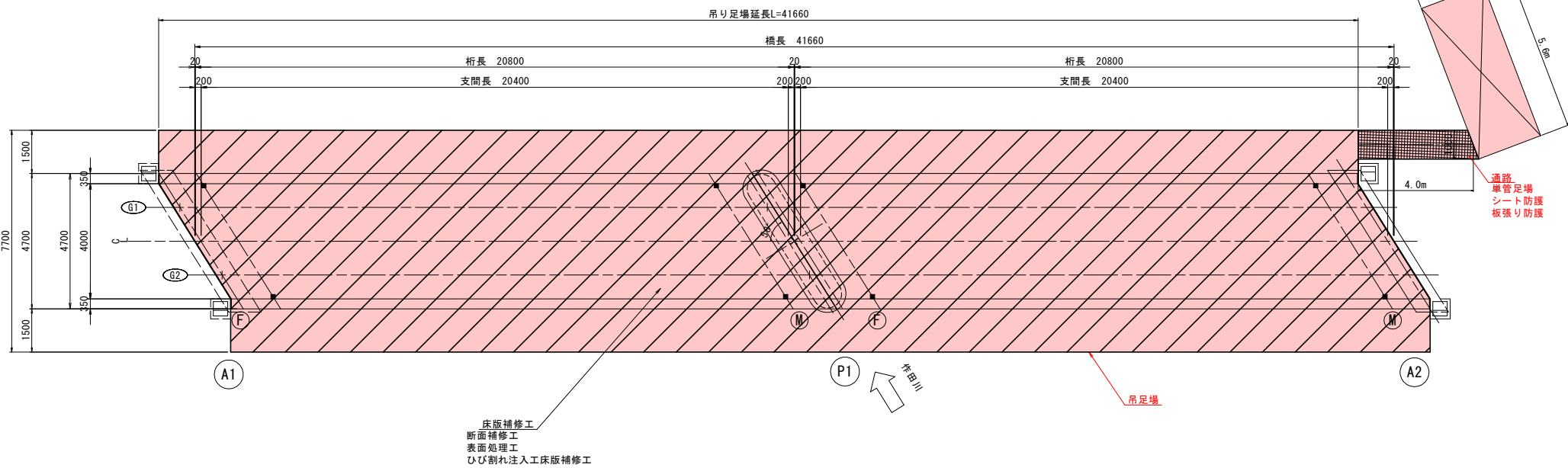


断 面 図 S=1:30



補修項目	補修工法	施工方法
防護柵補修工	防護柵取替工	吊り足場
地覆補修工	断面修復工 (左官工法)、表面処理工 (表面含浸工)	吊り足場
床版補修工	断面修復工 (左官工法)、ひびわれ注入工、表面処理工 (表面含浸工)	吊り足場
主桁表面処理工	鋼部材再塗装工 (Rc-I 塗装系) ※排水管、支承、添架管を含む	吊り足場

平 面 図 S=1:100



設 計 条 件

橋 梁 名	宇道坂橋 (うどうさかばし)	
竣 工 年	1967年11月 (昭和42年)	
橋 格	二等級 (推定)	
設計荷重	TL-14	
橋 長	L=41.660m	
桁 長	L=2#20.800m	
支 間 長	L=2#20.400m	
有効幅員	W=4.000m (全幅W=4.700m) ※現地計測より	
斜 角	58° ※現地計測より	
平面線形	R=∞	
橋面舗装	コンクリート舗装 (層厚不明)	
添 架 物	水道管φ160-1条	
上部工形式	2径間鋼単純合成H桁橋 (H-BB-C)	
下 部 工	躯体形式	重力式橋台
	基礎形式	直接基礎
適用示方書	道示 (1964) (昭和39年) (竣工年次より推定)	

注 記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。